

第6回（平成24年度）栃木県元気な農業コンクールいきいき農村部門受賞者紹介

☆ 農村環境保全向上の部

(1) 審査経過

農村環境保全向上の部には、13組織からの応募があり、いずれも、地域で協力して、それぞれの特性を活かした活動を展開しており、意欲や熱意が伝わるものでありました。

審査委員会では、①体制の充実（多様な主体による協同体制、将来像の明確化、人材育成など）、②創意工夫と自立性（地域の特性を活かした工夫や自立に向けた意識醸成など）、③環境保全や農業振興への寄与（地域の環境保全や農業振興等の取組など）、④多面的効果の発信（環境教育や積極的な情報発信など）の4つの視点から審査を行いました。この視点にもとづき、6人の審査委員が書類審査による評価・判定を行い、さらに優良地区の現地調査を行い、各賞を決定いたしました。

(2) 受賞組織の概要

● とちぎ元気大賞（栃木県知事賞・関東農政局長賞）

姿川環境保全会（宇都宮市）

農業を足場にして、すばらしい活動を展開しています。生きもの調査は、年々、参加者数が増加しており、平成24年7月の参加者は約350名となっています。小学校の農業体験、幼稚園でパネル展示等、農業・環境の理解促進にも取り組んでおり、「姿川田んぼまわりの生き物図鑑」の配布など、啓発活動も実施しています。農業面では「特別栽培米」等の生産に取り組んでいます。また、農村ならではの体験を検討するなどの将来構想も有しています。JA、農協観光などとの連携に活路を見だし、幅広い活動を行っています。活動が成熟しており、総合点が高い組織活動を行っている点を評価しました。更に地域との連携を強化し、継続性を高めることが期待されます。



生き物図鑑



JAと連携した生き物調査



点検活動と機能診断

● とちぎ元気賞（栃木県知事賞）

富屋西部ホタル愛護会（宇都宮市）

当地区はホタルが多数生息し、地域の人々のより所（ホタルは富屋のシンボル）となっていることから、ホタルが飛び交う里づくりを目指して、ホタルを核とした環境保全活動を展開しており、特徴的な点として、①ホタルの生息環境を整えたこと、②人工飼育、③地元小学校と連携し、児童たちにホタルの飼育・観察をさせる、などがあげられます。

学校との連携を上手に行っている点が印象的であり、ホタルに特化した取組はわかりやすく、地元資源を活用している点を評価しました。学校の授業との連携は、大人になった時に地元を大切にすることに繋がり、今後、近隣の住宅団地との連携が進むと、さらにすばらしい取組になると期待されます。



「ホタルの生息調べ」中間発表会



ゲンジボタルの成虫と卵の観察

● とちぎ元気賞（栃木県知事賞）

特定非営利活動法人 名草里山の会

地区住民に限らず、市内各地から趣旨賛同者が参画しています。参画者は、農業者、建築業、不動産業、電気店など多様で、多彩な活動の原動力となっています。活動は、幅広く、体験プログラムや親水公園の草刈、松月山散策道や炭焼き窯・ピザ窯など活動空間の整備などを実施しており、また、ひまわりやサルビアの植栽活動では、地元小学校PTAや育成会と連携し、幼・少年期から環境意識が徐々に育まれるような支援活動も行っています。

中山間地域の活動として非常に高いレベルにあり、県南の地域振興の新しいスタイルとなることが期待されます。活動の中心をNPO法人とする一つの考え方を示しています。



河川公園で楽しむ様子



サルビアの植栽

● 特別賞（栃木県農業協同組合中央会長賞）

上山資源保全会

集落営農組合とともに、農業者以外の団体（自治会、子供育成会、水利組合、老人会）と農村環境を維持するための活動を行っている点を評価しました。保育園、小・中学生等による農業体験学習や、ひまわり祭を通じた非農業者の参加など、今後の発展が期待されます。



生き物調査

たぬきの郷を守り隊

ひまわり畑（転作田 35a に約 1 万本を植栽）を活用した「ひまわりまつり」や、地元育成会との連携、減農薬減化学肥料栽培米「たぬっこ米」など、様々な取組を行っており、今後の発展が期待されます。



ひまわりまつり

● 特別賞（下野新聞社長賞）

小代地区環境配慮施設維持管理委員会

シモツケコウホネという希少種の保全を契機として、農家と非農家が一体となって、活発な協議・活動を実施している点を評価しました。地区外の方や環境保全に関心を持つ鹿沼南高校生など総勢 120 名が参加し、生き物調査やシモツケコウホネ観賞会、ピザ焼き交流会が開催されるなど、今後の発展が期待されます。



シモツケコウホネ

迫間田の郷

水田を活用した生息環境（ビオトープ）の設置、遊休農地を活用した菜の花、ひまわりの作付け、古代米の栽培及び古代米を使用した商品への原料の供給、先進的な農業生産活動（ふゆみずたんぼ）への取組など、様々な環境保全活動を通して、農家、非農家を問わず行われている点を評価しました。今後の発展が期待されます。



遊休農地を活用した菜の花